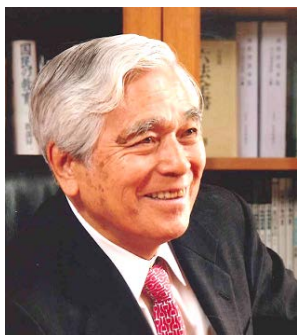


常識を疑う姿勢を 「少ないことは良いことか」

埼玉県私立中学高等学校協会 会長 小川 義 男



少人数学級の重要性がもてはやされている。しかし、少ないことは本当にそんなに良いことか。

我が国で最も人材が育ったのは55人学級の時代であったと思う。開成や灘では今も55人学級が当たり前だという。大人数のクラスだと、日常生活空間の中で多彩な人々と接触する。その相乗効果が優れた人物を生むのではないかと思うのである。

文科省は、学級の人数は少なければ少ないほど良いと考えているのではないかと思われる形跡がある。私に言わせれば、勤労条件緩和を目指す日教組と、参加構成員が一人でも多いことを求める文科省の野合ではないかという気がしてならない。

テレビで、教師が5人もいる小学校に生徒が一人しかいないなどという話が話題になる。美談として語られるのだ。何をぬかすか。生徒一人に年間五千万も金をかけて、頭がおかしいのではないか。その金を途上国などに使えば、何百人の尊い命をつなぐ事ができよう。教育をそれほど殿様、お姫様に祭り上げるような状況で、本当に健全な仕事はできるのか。

私の朝ゼミは300人だが、語る者は一人、聞く者も一人である。その際周りに何人いるかなどということは、騒ぐほど重要ではない。

能力別編成は、生徒集団の力量の均質性を意味するものであって、必ずしも小集団を必要とするものではない。大集団を統率できない教師には、5人の生徒集団を統率する事もできない。

随分思い切ったことを述べた。私が言いたいのは、研究とは、研修とは、常に常識を破る戦いだということである。何ものをも恐れず、太陽が火であることすら疑う非妥協的な姿勢を貫くところこそ、私学本来の研究、研修体制が存在するのではないか。

教育研究大会によせて

埼玉県私立中学高等学校協会 研究・研修部長 近藤 文彦



開催に当たりまして、事務局の方々のご尽力と講師の方々のご協力に、厚く御礼申し上げます。

先般、一都三県による会議で配付された資料に、今年度入試の私立高校入学者数が記載されておりました。それによると、埼玉県は募集人員に対し最も高い充足率である、約107%でした。神奈川県は約100%、残りの東京都・千葉県が約90%なので、突出した充足率といえます。まさに先生方の、不断の努力の賜です。

とは言え、少子化の流れは止まらないようです。資料によると埼玉県公立中学卒業者数は平成23年度を100%とすると、平成31年度には91.7%になります。このような時代を乗り越える為には、先生方の指導方法に更に研鑽を積む必要があります。そして、何よりも保護者の皆様の期待に更に応える事が求められます。

研鑽を積む一助となるのが、この研究大会です。この研究大会が参加した先生方にとって、実り多きものになる事を信じています。そして、研鑽を積まれた先生方が、埼玉私学の更なる発展に貢献される事を願っています。